

厚生病院だより

すずかけ

第35号 平成23年4月20日

発行／鳥取県立厚生病院

編集／院内広報委員会

被災地の復興を願って

今回の東北・東日本に生じた大震災のエネルギーには、全く言葉がありません。我々の想定を遙かに超えたすさまじい、けたはずれの自然の猛威が広範囲の地域を襲いました。

地球の成り立ち、経過から考えれば、今回の大地震も、反復した津波も、地球の自然現象です。地球の自然な流れ（地震）の枠内に、たまたまこの日本がすっぽりと含まれてしまいました。その枠内に、人力による家屋・建築物があって人が住み、そして、人工の原子力発電があり、それらすべてに悲惨な被害が見られています。この自然現象に、人間ができることは限られています。犠牲者の方々のご冥福を祈り、いち早い被災地の復興を願うものです。

今年の大雪から解放され、ようやく春が見えてまいりました。当院の医師について言えば、別ページに示すとおり、平成23年度は従来より少ない異動での幕開けです。今年度も、あらゆる疾患への高度医療の更なる推進とともに、地域の医療機関や住民の皆様方に信頼される医療の提供に全力を尽くす所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

院長 前田迪郎

厚生病院の基本理念

思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院

優れた医療を提供し、地域と密着した病院

職員の和を尊び、働きがいのある病院

第35号の内容

被災地の復興を願って(院長あいさつ)	…1	臨床研修医としての1年を振り返って	…5
医療救護班(厚生病院第1班)活動報告	…2	新人看護師としての1年を振り返って	…5
スマートフォン対応遠隔画像診断	…3	敷地内禁煙実施のお知らせ	…6
産婦人科部長の厚生労働大臣表彰受賞	…3	新任医師・退職者の紹介	…6
がん検診に関する公開討論開催報告	…4	外来診察日程表(23.4.1~)	…7
すずかけサロンの日程変更・活動報告	…4	禁煙外来のお知らせ	…8

新人看護師研修風景



鳥取県医療救護班(厚生病院第1班)活動報告



医療救護活動の拠点となった総合体育館



総合体育館内 780人の避難者が滞在



診察室風景 多くの人が体調を崩して受診

鳥取大学医学部附属病院、鳥取県立中央病院、そして当院は、地震による大津波で壊滅的被害を受けた宮城県女川町の方々が生きて避難されている総合体育館を拠点に、医療救護活動をしています。それぞれの病院が独自に医療救護班を編成し、切れ目なく引き継ぎしながら、著しく低下している現地の医療機能を側面から支援するというものです。

厚生病院第1班は、3月22日午後1時、2台のワゴン車に大量の物資(医薬品、3泊4日分の食糧や着替えなどの生活用物品、ガソリンなど)を積んで出発しました。新潟を経由して翌23日午後、女川町体育館に到着し、中央病院チームから引継ぎを受け医療活動を開始しました。

3月24日の体育館避難者は780人。日々の役割、スケジュールなどは、町役場の保健師さんが調整しておられました。自らも被災した町の診療所の医師、ボランティアで派遣された医師達と救護所で診療を行うとともに、町内に点在している避難所の巡回診療を行いました。ちょうどわれわれが引き継いだ頃から嘔吐、下痢などの感染性胃腸炎が多発し対応に追われましたが、25日午後に上水道が復旧、手洗いが可能となり安堵の声が上がりました。26日正午、鳥取大学チームにバトンタッチし、新潟を経由して27日夕刻に当院へ戻りました。

消化器外科部長 岸 清志

<班員一言>

○道祖尾 憲二郎(検査技師)

「もっとできたのでは」と自問自答をすることもありましたが、得るものはとても大きかったように思います。一日も早い復興をお祈りします。

○小椋美保子(看護師)

私たちは長い避難生活のほんの一部しかお手伝いできませんでしたが、これから支援の手が代わるごとに日々環境が改善されていくことを願っています。

○河本美和(看護師)

可能な限りのことを自分なりに精一杯したことの達成感と、今なお続いている被災者の方々の生活のことを考えると、ある種の罪悪感のような感情が入り混じっています。

○岸 清志(医師)

自分の年齢でも異常環境下で3泊4日の医療活動ができたことは、今後の自信(?)になります。

<派遣日程>

- 第1班 3月22日～3月27日
岸清志(医師)、小椋美保子(看護師)、河本美和(看護師)、道祖尾憲二郎(検査技師)
- 第2班 3月31日～4月4日
能勢道也(医師)、前川洋美(看護師)、藤原裕美(看護師)、川西幸一(薬剤師)
- 第3班 4月10日～4月14日
野口直哉(医師)、湯浅良恵(看護師)、杉本奈美(看護師)、道上隆文(薬剤師)
- 第4班 4月20日～4月24日
北村厚(医師)、戸田芳美(看護師)、布廣浩二(看護師)、小松珠美(薬剤師)
- 第5班 5月1日～5月5日
秋藤洋一(医師)、手島栄子(看護師)、宮本佳子(看護師)、上本圭一(事務)
- 第6班 5月16日～5月20日
永原天和(医師)、中田映子(看護師)、新田美保(看護師)、板野央輝(事務)
- 第7班 5月31日～6月4日
斧山巧(医師)、福井昭裕(看護師)、田中恵美(看護師)、森里昭典(放射線技師)

スマートフォン対応遠隔画像診断

～導入後3ヶ月を経過して～

昨年末よりスマートフォン対応遠隔画像診断の運用を開始し、約3ヶ月で80件以上の緊急読影（放射線科担当分のみ）を行いました。このシステムは、通話エリアの広いNTT DoCoMoの回線を利用したのものとしては国内第1号で、そのためか設置には様々な技術的問題が発生し、また実際に運用を開始してみるとデータの転送作業に思いのほか時間がかかることも判明しました。たとえば全身のCT画像を院内で読影するのと同じ条件で送信すると1時間近くもかかってしまい、とても救急診療に対応できるものではありませんでした。したがって現在は「見逃してはいけない重大な異常を見逃さないこと。」に重点を置き、10分以内に診断結果を報告できるよう、ある程度間引いた画像を送信しています。そのため、翌日些細な所見が電子カルテに追記される事もあるかもしれませんが、システムの性能が改善されるまでしばらくご容赦いただきたいと思います。

今回のシステムの開発担当者、そしてこの会社を紹介してくれた私の友人は、ともにお母様を頭部の救急疾患で亡くされています。「もしあの時このシステムがあったら・・・と思うことがあります。」と、偶然二人から同じ話を聞きました。まだまだ改善の余地のあるシステムで、また、診断する私たちも常に完璧とはいかないかもしれませんが、このシステムを活用して少しでも救急診療の下支えになる事ができればと思っています。

自宅・外出先でCTやMRIの画像を見ることができます



放射線科部長 橋本政幸

澤住産婦人科部長の厚生労働大臣表彰受賞

このたび、我らが澤住和秀産婦人科部長が、厚生労働大臣表彰を受賞されました。鳥取県中部の医療圏内で出産可能な医療機関が減少し、当院の産婦人科医も減少する中で、地域の開業産婦人科医の協力も得ながら中部医療圏内で安心してお産が行える体制を維持し、また、里帰り出産のニーズにも対応するなどの功績によるもので、私達産婦人科スタッフ一同にとっても、大変うれしい出来事です。

昨今の産婦人科医師の減少に伴い、産婦人科の先生方は、外来診療はもちろんのこと、出産や緊急手術などで昼夜を問わない激務を強いられている現状にあります。このような厳しい状況にありながらも、澤住先生はいつも温厚な対応で診療にあたられ、患者様から絶大なる信頼を得ておられます。澤住先生は、そのお人柄から人望も厚く、先生を慕う医師やスタッフも多く、皆が先生と共に当院で働けることにやりがいを感じています。

また、先生は助産師を目指す学生の実習指導にも精力的に取り組んでこられ、当院には先生の講義で学んだ助産師が大勢勤務しています。当院の「院内助産システム」の開設も、先生の助産師に対する信頼と期待の証であると、大変感謝しています。

これからも先生ご自身の体調にも留意されながら、鳥取県中部の女性とそご家族のために、鳥取県中部の産婦人科医療を支えていただきたいと思います。

澤住先生、本当におめでとうございます。



中央が澤住部長（当院の祝賀会で）

2階病棟（産婦人科）看護師長 古礪祥子

公開討論『消化器がん検診を考える』を開催しました

平成23年1月15日に「検診受診率50%は達成可能か」と題して消化器がん検診を考える公開討論会を開催しました。鳥取県の中でも中部地区のがん検診受診率は極端に低く、若い方が手遅れのがんで亡くなっておられます。命を落とすことのない早期がんの段階で発見することができれば、みんなが幸せになります。

働き盛りの人に手遅れのがんが見つかり、次のような経済的影響が生じ、ひいては税金や診療費の個人負担の増大につながることになります。

- ・高額な医療費による国民医療費の増大 → 民政財源の圧迫
- ・就労困難、離職などによる生産性の低下 → 個人、企業からの税収の減少



疾病予防、保健指導を強化し、がん検診の受診率を上げて早期がんで見つかる人を多くすることで、地域活性化の原資を調達でき、町が元気になります。

お隣の韓国では、健康保険の一本化による徹底した検診体制があります。2010年のがん検診の受診率は46.8%を達成し、2015年に73.7%になるとのことです。特筆すべきは、検診でがんが見つかった患者に限っては、治療費の一部を国が助成するなどの工夫がなされていることです。

今回の討論会では、日本において50%の受診率達成はなかなか困難であるとの結論でしたが、鳥取県東部、西部地区の消化器がん検診の受診率は30%近くあるのに比べ、中部地区では20%そこそこです。受診しないことには助かるがんは見つかりません。平成23年度には県の事業として「鳥取県中部胃がん死亡ゼロプロジェクト」が立ち上がります。村おこし、町おこしは健康な人がたくさんいることが原点です。検診を是非受けましょう。

医療局長 秋藤洋一

すずかけサロンの日程変更

当院がん患者サロン『すずかけサロン』の開催日について、本年4月より第1・3木曜日から第1・3火曜日に変更されました。



野外活動で三徳山へ 豆腐料理を賞味

時間・場所の変更はなく、14時～16時に本館2階のすずかけサロンフリースペースで開いています。相談員（看護師）に加えて、新たに臨床心理士もサポートを行います。

最近のサロンでは、免疫力を高める「楽しいこと探し」を行っています。落語のCDを全員で聴いて笑ったり、ハンドリフレクソロジー（手のマッサージ）を資料片手に見よう見まねでしてみたりしました。体調の悪い方も「参加すると、皆のパワーをもらって元気になる」と頑張っておられます。

1人では出せない元気も、仲間の支えで思わぬ力が出るものです。新しく参加される方もお気軽にお立ち寄りください。

がん相談支援員 徳田恵子

臨床研修医としての1年を振り返って

厚生病院で初期臨床研修をさせていただき、はや1年が過ぎようとしています。1年間で内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、麻酔科、外科、消化器外科と様々な科をまわり、勉強させていただきました。疾患のこと、検査のこと、治療のこと、



患者さんとの接し方など学ぶことが沢山あり、非常に内容の濃い日々だったと思います。指導医の先生からは優しく、時には厳しく指導していただきました。うまくできずにご迷惑をかける場面も多々ありましたが、そこは指導医をはじめ看護師さん、技師さん、事務の皆さんなど厚生病院で働く皆さん全員に温かい目で見守ってもらっていたように思います。そのおかげで安心して研修をおくることができました。

4月からは新しい研修医の先生も来られ、自分も教える立場となります。まだまだ未熟者であり、もっと成長していかなければなりません。気持ちを引き締めなおして、新しい研修医の先生と一緒にこの厚生病院で切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思います。

臨床研修医 中山明香里

新人看護師としての1年を振り返って

看護師兼助産師として厚生病院の新生児集中治療室に勤務してから1年が経ちました。私は新卒での入職で、看護師として働くことに漠然とした不安もあり、新生児集中治療室という専門性の高い部署に配属が決まり、さらに不安を感じていました。しかし、そのような不安は少しずつ解消されていきました。

厚生病院では入職してから1ヶ月間の研修期間があります。技術研修はもちろん、先輩看護師と共に一日行動するシャドウ研修があり、先輩方の技術やコミュニケーションや判断の視点などを学ぶ機会もあります。この研修期間で学生の間で学んできた看護を振り返ることが出来、実際の看護師のイメージをつかむことが出来ました。緊張と不安の中でこの充実した研修があったため、1ヶ月の研修期間後は落ち着いた気持ちで病棟に行くことが出来ました。研修は1ヶ月で終わるわけではなく月1回定期的には実施され、先輩看護師や同期との交流の場にもなりました。先輩方はとても優しく、どんなに細かいことでも根拠を交えて丁寧に教えて下さいます。



患者様にとって病院の環境が安全安楽な空間であり続けるために、私も先輩方のように専門職としての責任を持ちながらこれからも頑張っていきたいと思います。

2階病棟 高良望美

敷地内禁煙実施のお知らせ

平成23年4月1日より、鳥取県立厚生病院は敷地内禁煙を実施しています。当院の敷地内のどこであってもたばこを吸うことが禁止され、玄関先でも駐車場でも喫煙できる場所は一切ありません。

喫煙の害は、もちろん皆さんよくご存じですが、他人のタバコの煙を吸うこと（受動喫煙）も健康に想像以上の破滅的な悪影響（肺癌、脳卒中、心筋梗塞など）を及ぼすことが科学的に証明されています。自分の鼻にたばこの臭いが残るだけで、たばこの発がん性物質が体内に入ったことを示しています。

「喫煙は他人の健康を阻害している」という自覚が必要となった現代社会では、完全禁煙だけが唯一の現実的な対策ですので、敷地内禁煙が必要とされるわけです。

当院は、安全で快適な環境により疾病の予防と治療を行い、皆さんの健康を守らなければならない医療機関です。敷地内禁煙の必要性について、皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

また、これを機会に禁煙を決心された方は、当院の禁煙外来（※本誌最終ページに詳細を掲載しています。）を受診してください。苦労の少ないたばこからの離脱をサポートさせていただきます。



資料提供：呉羽内科医院 水上陽真氏

中央手術センター長兼外科部長 吹野俊介

新任医師（四月一日付）

	消化器内科 斧山 巧 (専攻医)		放射線科 河合 剛 (副医長)		産婦人科 周防 加奈 (副医長)		脳神経内科 土井 浩二 (副医長)
	研修医 本田 聡子		研修医 小椋 貴文		研修医 大田 里香子		外科 岸本 諭 (専攻医)

退職者

(平成二三年三月三十一日付)

医師

- 消化器内科 川田 壮一郎
- 脳神経内科 伊藤 悟
- 外科 大月 優貴
- 消化器外科 竹本 大樹
- 産婦人科 工藤 明子
- 放射線科 篠原 祐樹
- 看護局 山本 尚美
- 政門 玲子
- 山口 裕子
- 中央検査室 坂本 克章

長期勤続退職者

お世話になりました。

鳥取県立厚生病院							
外来診察日程表							
平成23年4月1日現在							
科名 / 曜日	月	火	水	木	金	土・日	
消化器内科	万代 真理 (肝臓)	野口 直哉 (消化器)	斧山 巧 (消化器)	北村 厚 (消化器)	永原 天和 (肝臓)	休	
内科	一診	佐藤 徹	山本 了 (腎臓内科)		PM 山本 了 (腎臓内科)		
	二診	秋藤 洋一	永原 天和	佐藤 徹	秋藤 洋一		
	三診	森 正剛 (循環器内科再診)	秋藤 洋一 (総合内科)	村脇あゆみ (糖尿病・内分泌)	松澤和彦(鳥大) (糖尿病・内分泌)		野口 直哉
	四診	村脇あゆみ	岩垣 尚史	万代 真理	斧山 巧		北村 厚
呼吸器内科	岩垣 尚史		山本 芳麿	山本 芳麿	岩垣(第1,3,5週)/山本(第2,4週) (肺癌検診・再診)		
精神科		植田 俊幸 (予約のみ)		植田 俊幸 (予約のみ)			
脳神経内科	土井 浩二		土井 浩二		土井 浩二		
循環器内科	澤口 正彦	AM 森 正剛 (救急対応・院内紹介)	澤口 正彦	AM 森 正剛 (救急対応・院内紹介)	森 正剛		
小児科	一診	奈良井 栄	岡山 良樹 (3週間健診あり)	奈良井 栄	岡田 隆好 (3週間健診あり)		奈良井 栄
	二診	AM 岡田 隆好 PM BCG接種(注1)	PM 予防接種(注1)	AM 洲崎 一郎 (脳小外来)(注意2)	AM 洲崎 一郎 (脳小外来)(注意2)		AM 岡山 良樹 (3週間健診あり) PM 乳児検診(注5)
	三診	PM前垣義弘(鳥大)脳小外 来(注3)			花木啓一(鳥大) 内分泌外来(注4)		PM 予防接種 (注1)
外科	一診	田中 裕子	吹野 俊介 (呼吸器・一般外科)	田中 裕子	吹野 俊介 (呼吸器・一般外科)		吹野 俊介 (呼吸器・一般外科)
	二診	児玉 渉	浜崎 尚文 (心臓血管)	岸本 諭	浜崎 尚文 (心臓血管)		児玉 渉
	三診						第1・第3金曜日 西村元延(鳥大)
消化器外科	西江 浩	岸 清志	岩本 明美	竹林 正孝	岸 清志		
整形外科	一診	能勢 道也	橋本 達宏	西原 彰彦	西原 彰彦		橋本 達宏
	二診	西原 彰彦(10時まで)	阿藤孝二郎	能勢 道也	阿藤孝二郎		能勢 道也
脳神経外科	一診	紙谷 秀規	石橋美名子	第2・第4水曜日 赤塚啓一(鳥大) (脊髄外来)	紙谷 秀規		石橋美名子
	二診	石橋美名子 (予約診)	紙谷 秀規		石橋美名子 (予約診)		紙谷 秀規 (予約診)
皮膚科		塩見 達志 (鳥大)					
泌尿器科	村岡 邦康	村岡 邦康	AM 日向信之 (鳥大)	村岡 邦康	村岡 邦康		
産婦人科	一診(婦人科)	門脇 浩司	周防 加奈	澤住 和秀	門脇 浩司	澤住 和秀	
	不妊外来	門脇 浩司	門脇 浩司	門脇 浩司	門脇 浩司	門脇 浩司	
	二診(産科)	澤住 和秀		門脇 浩司	AM 周防 加奈	AM 周防 加奈	
助産師外来	午前	○		○	○		
	午後	○		○			
眼科			山本由紀美 (鳥大)		三宅/蝶野/魚谷 (鳥大)		
耳鼻いんこう科	橋本 好充	橋本 好充	橋本 好充	橋本 好充	橋本 好充		
放射線科	一診	橋本 政幸	橋本 政幸	橋本 政幸	橋本 政幸	橋本 政幸	
	二診	河合 剛	河合 剛	河合 剛	河合 剛	河合 剛	
	大 学 応 援	足立 憲	矢田 晋作			道本 幸一	
動脈硬化外来				PM 浜崎尚文	PM 澤口正彦		
緩和ケア外来			PM(15:00~16:00) 岩垣 尚史				

(注1) 月曜日のBCG接種、火曜日・金曜日の予防注射は午後からです。予約が必要です。
 (注2) 水曜日・木曜日の脳神経小児外来は予約が必要です。なお、第1木曜日は休診になります。
 (注3) 月曜日の脳神経小児外来は第1月曜日の午後です。予約が必要です。
 (注4) 木曜日の内分泌外来は月2回です。予約が必要です。
 (注5) 金曜日の乳児検診は13時30分から受付、14時開始です。
 ◎診療時間 8時30分から17時まで
 ◎受付時間 ☆新患 8時30分から11時まで
 ☆再来 7時30分から11時まで(自動再来受付機)
 ☆土曜日、日曜日、祝日、平日時間外も救急患者は受付します。

看護師募集!!

当院では、看護師を随時募集しています。
お問い合わせや院内見学をご希望の場合は、
お気軽にご相談ください。

【お問い合わせ先】〒682-0804
鳥取県倉吉市東昭和町150番地
鳥取県立厚生病院 看護局
TEL: 0858-22-8181(内線3410)
e-mail: kouseibyouin@pref.tottori.jp



新人看護師研修で注射の練習です♪♪

禁煙外来のお知らせ

当院では、5月10日(火)から**保険適用の禁煙外来**を開設します。
完全予約制で次のとおり診療を行います。

日 時 : 毎週火曜日 午後2時から3時

場 所 : 外科外来

診察医 : 吹野医師、秋藤医師

※予約・お問い合わせは、午後3時以降に外科外来でお受けします。



治療方法

受診時期	治療内容
初回治療	禁煙治療のための条件の確認
再診1(2週間後)	①呼気一酸化炭素濃度の測定
再診2(4週間後)	②診察
再診3(8週間後)	③禁煙実行、継続に向けてのアドバイス
再診4(12週間後)	④ニコチン製剤の処方

料金《標準的な料金例》※処方のパターン等により、金額は増減します。

	厚生病院分 A	院外薬局分 B	A+B
	自己負担 3割	自己負担 3割	自己負担 3割 合計
初診	3,275円	1,960円	5,235円
2週間後	970円	2,500円	3,470円
4週間後	970円	4,530円	5,500円
8週間後	970円	4,530円	5,500円
12週間後	750円	0円	750円
計	6,935円	13,520円	20,455円

〈注意事項〉

- ・保険適用には、一定の条件があります。
- ・入院中の患者様は利用できません。退院後の利用になります。

〒682-0804
鳥取県倉吉市東昭和町150番地
鳥取県立厚生病院

TEL 0858-22-8181(代)
FAX 0858-22-1350(代)
HP <http://www.pref.tottori.jp/kouseibyouin>